

CC-Link 通信変換器

COM-JC

[FB100/FB400/FB900対応版]

通信データ一覧

All Rights Reserved, Copyright © 2005, RKC INSTRUMENT INC.

IMR01Y16-J7

本製品をお使いになる前に、本書をよくお読みいただき、内容を理解された上でご利用ください。なお、本書は大切に保管し、必要なときにご利用ください。

本書はCOM-JCの通信データについて説明したものです。

詳細な取り扱いや操作等については、別冊の **COM-JC [FB100/FB400/FB900 対応版] 取扱説明書 (IMR01Y06-JC)** を参照してください。当社ホームページからダウンロードできます。

ホームページアドレス: http://www.rkcinst.co.jp/down_load.htm

1. リモート入出力

リモート入力 (RX) とリモート出力 (RY) は、ON/OFF 情報です。

表中の「n」は、局番設定によってマスタ局に付けられたアドレスです。つぎの計算式で算出します。ただし、計算式は当社 COM-JC のみでネットワークを構成し、すべての占有局数／拡張サイクリック設定が同じ設定の場合です。

占有局数／拡張サイクリック設定	計算式
1局占有1倍	$n = (\text{局番} - 1) \times 2$
4局占有1倍	$n = (\text{局番} - 1) \times 2$
4局占有2倍	$n = (\text{局番} - 1) \times 3.5$

* 1局占有のときの局番: 1～64 (1つずつ設定可能)
4局占有のときの局番: 1～61 (1つの局番で4局分を占有するため、1、5、9、…61と4つずつ間を空けた数値のみ設定可能)

計算結果は10進数なので、表中のnに代入する前に16進数に変換します。

例) COM-JC の設定が、4局占有1倍設定で、局番5の場合
 $n = (5 - 1) \times 2 = 8$ (10進数) → 8 (16進数)
局番5の場合: リモート入力 RXn0～RX (n+7) F → RX80～RXFF
リモート出力 RYn0～RY (n+7) F → RY80～RYFF

表中の「デバイスアドレス (1～16 台目)」へのコントローラ (FB100/FB400/FB900) の割り付けは、「拡張番号 503 接続コントローラアドレス設定」で行います。出荷値のまま使用している場合は、表中の「デバイスアドレス (1～16 台目)」に、コントローラ 1～16 (デバイスアドレス 1～16) が割り付けられています。

1.1 1局占有1倍設定

■ リモート入力一覧

データ方向: COM-JC (リモートデバイス局) → マスタ局 (PLC)

データ容量: 32 ビット

アドレス	通信項目	データ範囲	出荷値
RXn0	デバイス アドレス (1 台目)	イベント 1 状態	0: OFF
RXn1		イベント 2 状態	1: ON
RXn2		バーンアウト状態	0: OFF 1: ON
RXn3		ヒータ断線警報 (HBA) 状態	0: OFF 1: ON
RXn4		PID/AT 切換状態	0: PID 制御 1: オートチューニング (AT)
RXn5		デバイス アドレス (2 台目)	イベント 1 状態
RXn6		イベント 2 状態	イベント 2 状態
RXn7		バーンアウト状態	バーンアウト状態
RXn8		ヒータ断線警報 (HBA) 状態	ヒータ断線警報 (HBA) 状態
RXn9		PID/AT 切換状態	PID/AT 切換状態
RXnA	不使用		
RXnB			
RXnC	拡張表示完了	0: OFF 1: ON	
RXnD	拡張設定完了		
RXnE	不使用		
RXnF	ハードエラーフラグ	0: OFF 1: ON COM-JC 自己診断エラー (通信エラーを除く) が発生した場合に、ON になります。	
RX(n+1)0 ⋮ RX(n+1)7	予約		
RX(n+1)8	イニシャルデータ処理要求フラグ	0: OFF 1: ON	
RX(n+1)9	イニシャルデータ設定完了フラグ		
RX(n+1)A	エラー状態フラグ	0: OFF 1: ON 通信エラーが発生した場合に、ON になります。	
RX(n+1)B ⋮ RX(n+1)F	リモート Ready 予約	0: 非 Ready 状態 1: Ready 状態	

■ リモート出力一覧

データ方向: マスタ局 (PLC) → COM-JC (リモートデバイス局)

データ容量: 32 ビット

アドレス	通信項目	データ範囲	出荷値
RYn0	表示用拡張番号設定	RYn0～RYn5 の ON/OFF で表示用拡張番号を指定 データ 0: OFF 1: ON [10 進数表現: 0～63]	0
RYn1			
RYn2			
RYn3			
RYn4			
RYn5			

アドレス	通信項目	データ範囲	出荷値
RYn6	Bit 0 Bit 1 Bit 2 Bit 3 Bit 4 Bit 5	RYn6～RYnB の ON/OFF で設定用拡張番号を指定 データ 0: OFF 1: ON [10 進数表現: 0～63]	0
RYn7			
RYn8			
RYn9			
RYnA			
RYnB			
RYnC	拡張表示フラグ	0: OFF	0
RYnD	拡張設定フラグ (設定更新フラグ)	1: ON	0
RYnE	不使用		
RYnF	RUN/STOP 切換	COM-JC*01-1 の場合 0: RUN 1: STOP COM-JC*01-2 の場合 0: STOP 1: RUN	0
RY(n+1)0 ⋮ RY(n+1)7	予約		
RY(n+1)8	イニシャルデータ処理完了フラグ	0: OFF 1: ON	0
RY(n+1)9	イニシャルデータ設定要求フラグ	0: OFF 1: ON	0
RY(n+1)A	エラーリセット要求フラグ	0: OFF 1: ON	0
RY(n+1)B ⋮ RY(n+1)F	予約		

1.2 4局占有1倍設定

■ リモート入力一覧

データ方向: COM-JC (リモートデバイス局) → マスタ局 (PLC)

データ容量: 128 ビット

アドレス	通信項目	データ範囲	出荷値
RXn0	デバイス アドレス (1 台目)	イベント 1 状態	0: OFF
RXn1		イベント 2 状態	1: ON
RXn2		バーンアウト状態	0: OFF 1: ON
RXn3		ヒータ断線警報 (HBA) 状態	0: OFF 1: ON
RXn4		PID/AT 切換状態	0: PID 制御 1: オートチューニング (AT)
RXn5		デバイス アドレス (2 台目)	イベント 1 状態
RXn6		イベント 2 状態	イベント 2 状態
RXn7		バーンアウト状態	バーンアウト状態
RXn8		ヒータ断線警報 (HBA) 状態	ヒータ断線警報 (HBA) 状態
RXn9		PID/AT 切換状態	PID/AT 切換状態
RXnA		不使用	
RXnB			
RXnC	拡張表示完了	0: OFF 1: ON	
RXnD	拡張設定完了	0: OFF 1: ON	
RXnE	不使用		
RXnF	ハードエラーフラグ	0: OFF 1: ON COM-JC 自己診断エラー (通信エラーを除く) が発生した場合に、ON になります。	
RX(n+1)0 ⋮ RX(n+1)F	不使用		
RX(n+2)0	デバイス アドレス (3 台目)	イベント 1 状態	デバイスアドレス (1 台目) と同じ
RX(n+2)1		イベント 2 状態	
RX(n+2)2		バーンアウト状態	
RX(n+2)3		ヒータ断線警報 (HBA) 状態	
RX(n+2)4		PID/AT 切換状態	
RX(n+2)5		デバイス アドレス (4 台目)	イベント 1 状態
RX(n+2)6		イベント 2 状態	デバイスアドレス (1 台目) と同じ
RX(n+2)7		バーンアウト状態	
RX(n+2)8		ヒータ断線警報 (HBA) 状態	
RX(n+2)9		PID/AT 切換状態	
RX(n+2)A		デバイス アドレス (5 台目)	イベント 1 状態
RX(n+2)B		イベント 2 状態	デバイスアドレス (1 台目) と同じ
RX(n+2)C		バーンアウト状態	
RX(n+2)D		ヒータ断線警報 (HBA) 状態	
RX(n+2)E		PID/AT 切換状態	
RX(n+2)F		デバイス アドレス (6 台目)	イベント 1 状態
RX(n+3)0		イベント 2 状態	デバイスアドレス (1 台目) と同じ
RX(n+3)1		バーンアウト状態	
RX(n+3)2		ヒータ断線警報 (HBA) 状態	
RX(n+3)3		PID/AT 切換状態	
RX(n+3)4	デバイス アドレス (7 台目)	イベント 1 状態	デバイスアドレス (1 台目) と同じ
RX(n+3)5		イベント 2 状態	
RX(n+3)6		バーンアウト状態	
RX(n+3)7		ヒータ断線警報 (HBA) 状態	
RX(n+3)8		PID/AT 切換状態	
RX(n+3)9		デバイス アドレス (8 台目)	イベント 1 状態
RX(n+3)A		イベント 2 状態	デバイスアドレス (1 台目) と同じ
RX(n+3)B		バーンアウト状態	
RX(n+3)C		ヒータ断線警報 (HBA) 状態	
RX(n+3)D		PID/AT 切換状態	
RX(n+3)E		不使用	
RX(n+3)F		不使用	
RX(n+4)0	デバイス アドレス (9 台目)	イベント 1 状態	デバイスアドレス (1 台目) と同じ
RX(n+4)1		イベント 2 状態	
RX(n+4)2		バーンアウト状態	
RX(n+4)3		ヒータ断線警報 (HBA) 状態	
RX(n+4)4		PID/AT 切換状態	
RX(n+4)5		デバイス アドレス (10 台目)	イベント 1 状態
RX(n+4)6		イベント 2 状態	デバイスアドレス (1 台目) と同じ
RX(n+4)7		バーンアウト状態	
RX(n+4)8		ヒータ断線警報 (HBA) 状態	
RX(n+4)9		PID/AT 切換状態	
RX(n+4)A		デバイス アドレス (11 台目)	イベント 1 状態
RX(n+4)B		イベント 2 状態	デバイスアドレス (1 台目) と同じ
RX(n+4)C		バーンアウト状態	
RX(n+4)D		ヒータ断線警報 (HBA) 状態	
RX(n+4)E		PID/AT 切換状態	

アドレス	通信項目	データ範囲	出荷値
RX(n+4)F	デバイス アドレス (12 台目)	イベント 1 状態	デバイスアドレス (1 台目) と同じ
RX(n+5)0		イベント 2 状態	
RX(n+5)1		バーンアウト状態	
RX(n+5)2		ヒータ断線警報 (HBA) 状態	
RX(n+5)3		PID/AT 切換状態	
RX(n+5)4		デバイス アドレス (13 台目)	イベント 1 状態
RX(n+5)5		イベント 2 状態	デバイスアドレス (1 台目) と同じ
RX(n+5)6		バーンアウト状態	
RX(n+5)7		ヒータ断線警報 (HBA) 状態	
RX(n+5)8		PID/AT 切換状態	
RX(n+5)9	デバイス アドレス (14 台目)	イベント 1 状態	デバイスアドレス (1 台目) と同じ
RX(n+5)A		イベント 2 状態	
RX(n+5)B		バーンアウト状態	
RX(n+5)C		ヒータ断線警報 (HBA) 状態	
RX(n+5)D		PID/AT 切換状態	
RX(n+5)E		不使用	
RX(n+5)F		不使用	
RX(n+6)0	デバイス アドレス (15 台目)	イベント 1 状態	デバイスアドレス (1 台目) と同じ
RX(n+6)1		イベント 2 状態	
RX(n+6)2		バーンアウト状態	
RX(n+6)3		ヒータ断線警報 (HBA) 状態	
RX(n+6)4		PID/AT 切換状態	
RX(n+6)5		デバイス アドレス (16 台目)	イベント 1 状態
RX(n+6)6		イベント 2 状態	デバイスアドレス (1 台目) と同じ
RX(n+6)7		バーンアウト状態	
RX(n+6)8		ヒータ断線警報 (HBA) 状態	
RX(n+6)9		PID/AT 切換状態	
RX(n+6)A ⋮ RX(n+6)F		不使用	
RX(n+7)0 ⋮ RX(n+7)7	予約		
RX(n+7)8		イニシャルデータ処理要求フラグ	0: OFF 1: ON
RX(n+7)9		イニシャルデータ設定完了フラグ	
RX(n+7)A		エラー状態フラグ	0: OFF 1: ON 通信エラーが発生した場合に、ON になります。
RX(n+7)B		リモート Ready	0: 非 Ready 状態 1: Ready 状態
RX(n+7)C ⋮ RX(n+7)F		予約	

■ リモート出力一覧

データ方向: マスタ局 (PLC) → COM-JC (リモートデバイス局)

データ容量: 128 ビット

アドレス	通信項目	データ範囲	出荷値
RYn0	Bit 0 Bit 1 Bit 2 Bit 3 Bit 4 Bit 5 Bit 6 Bit 7 Bit 8 Bit 9 Bit 10 Bit 11 Bit 12 Bit 13	表示用拡張番号設定 RYn0～RYn5 と RY(n+1)0～RY(n+1)2 の ON/OFF で表示用拡張番号を指定 データ 0: OFF 1: ON [10 進数表現: 0～511]	0
RYn1			
RYn2			
RYn3			
RYn4			
RYn5			
RYn6		設定用拡張番号設定 RYn6～RYnB と RY(n+1)8～RY(n+1)A の ON/OFF で設定用拡張番号を指定 データ 0: OFF 1: ON [10 進数表現: 0～511]	0
RYn7			
RYn8			
RYn9			
RYnA		拡張表示フラグ	0: OFF 1: ON
RYnB			
RYnC			
RYnD			
RYnE	不使用		
RYnF	RUN/STOP 切換	COM-JC*01-1 の場合 0: RUN 1: STOP COM-JC*01-2 の場合 0: STOP 1: RUN	0
RY(n+1)0 ⋮ RY(n+1)13	Bit 6 Bit 7 Bit 8 Bit 9 Bit 10 Bit 11 Bit 12 Bit 13	表示用拡張番号設定 Bit 9～Bit 13: 不使用	0
RY(n+1)1			
RY(n+1)2			
RY(n+1)3			
RY(n+1)4		設定用拡張番号設定 Bit 9～Bit 13: 不使用	0
RY(n+1)5			
RY(n+1)6			
RY(n+1)7			
RY(n+1)8		設定用拡張番号設定 Bit 9～Bit 13: 不使用	0
RY(n+1)9			
RY(n+1)A			
RY(n+1)B			
RY(n+1)C		表示用エリア番号設定 Bit 4～Bit 7: 不使用	0
RY(n+1)D			
RY(n+1)E			
RY(n+1)F			
RY(n+2)0		表示用エリア番号設定 Bit 4～Bit 7: 不使用	0
RY(n+2)1			
RY(n+2)2			
RY(n+2)3			
RY(n+2)4		設定用拡張番号設定 Bit 4～Bit 7: 不使用	0
RY(n+2)5			
RY(n+2)6			
RY(n+2)7			
RY(n+2)8		設定用拡張番号設定 Bit 4～Bit 7: 不使用	0
RY(n+2)9			
RY(n+2)A			
RY(n+2)B			
RY(n+2)C		表示用拡張番号設定 Bit 4～Bit 7: 不使用	0
RY(n+2)D			
RY(n+2)E			
RY(n+2)F			
RY(n+3)0 ⋮ RY(n+3)7	不使用 予約		

アドレス	通信項目	データ範囲	出荷値
RY(n+7)8	イニシャルデータ処理完了フラグ	0: OFF 1: ON	0
RY(n+7)9	イニシャルデータ設定要求フラグ	0: OFF 1: ON	0
RY(n+7)A	エラーリセット要求フラグ	0: OFF 1: ON	0
RY(n+7)B ⋮ RY(n+7)F	予約		

4 局占有 2 倍設定のリモート入出力アドレスについては、**COM-JC [FB100/FB400/FB900 対応版] 取扱説明書 (IMR01Y06-JC)** を参照してください。

2. リモートレジスタ

リモートレジスタ (RWn, RWW) は、数値データです。

表中の「n」は、局番設定によってマスタ局に付けられたアドレスです。つぎの計算式で算出します。ただし、計算式は当社 COM-JC のみでネットワークを構成し、すべての占有局数／拡張サイクリック設定が同じ設定の場合です。

占有局数／拡張サイクリック設定	計算式
1局占有1倍	$n = (\text{局番} - 1) \times 4$
4局占有1倍	$n = (\text{局番} - 1) \times 4$
4局占有2倍	$n = (\text{局番} - 1) \times 8$

* 1局占有のときの局番: 1～64 (1つずつ設定可能)
4局占有のときの局番: 1～61 (1つの局番で4局分を占有するため、1、5、9、…61と4つずつ間を空けた数値のみ設定可能)

計算結果は10進数なので、表中のnに代入する前に16進数に変換します。

例) COM-JC の設定が、4局占有1倍設定で、局番5の場合
 $n = (5 - 1) \times 4 = 16$ (10進数) → 10 (16進数)
局番5の場合: リモートレジスタ RWn～RWn+F → RWn10～RWn1F
RWWn～RWWn+F → RWW10～RWW1F

表中の「デバイスアドレス (1～16 台目)」へのコントローラ (FB100/FB400/FB900) の割り付けは、「拡張番号 503 接続コントローラアドレス設定」で行います。出荷値のまま使用している場合は、表中の「デバイスアドレス (1～16 台目)」に、コントローラ 1～16 (デバイスアドレス 1～16) が割り付けられています。

リモートレジスタ (RWn, RWW) のデータ方向
RWn: COM-JC (リモートデバイス局) → マスタ局 (PLC)
RWW: マスタ局 (PLC) → COM-JC (リモートデバイス局)

リモートレジスタ (RWW) に固定で割り付けられている「設定値 (SV)」を変更する場合は、設定用拡張番号切換処理のフラグ操作が必要です。詳細は**COM-JC [FB100/FB400/FB900対応版] 簡易取扱説明書 (IMR01Y11-JC)** を参照してください。

2.1 1局占有1倍設定 (コントローラ 1 台割り付)

■ リモートレジスタ (RWn) 一覧

2.3 4局占有1倍設定 (コントローラ 8 台割付)

■ リモートレジスタ (RWr) 一覧

データ容量: 16 ワード

アドレス	通信項目	データ範囲	出荷値
RWrn	デバイスアドレス (1 台目)	測定値 (PV)	入力スケール下限～
RWrn+1	デバイスアドレス (2 台目)	測定値 (PV)	入力スケール上限
RWrn+2	デバイスアドレス (3 台目)	測定値 (PV)	—
RWrn+3	デバイスアドレス (4 台目)	測定値 (PV)	—
RWrn+4	デバイスアドレス (5 台目)	測定値 (PV)	—
RWrn+5	デバイスアドレス (6 台目)	測定値 (PV)	—
RWrn+6	デバイスアドレス (7 台目)	測定値 (PV)	—
RWrn+7	デバイスアドレス (8 台目)	測定値 (PV)	—
RWrn+8	デバイスアドレス (1 台目)	拡張領域表示用	表示用拡張番号設定 RYn0
RWrn+9	デバイスアドレス (2 台目)	拡張領域表示用	～RYn5 と RY(n+1)0～
RWrn+A	デバイスアドレス (3 台目)	拡張領域表示用	RY(n+1)2 によって指定し
RWrn+B	デバイスアドレス (4 台目)	拡張領域表示用	た拡張番号のデータ
RWrn+C	デバイスアドレス (5 台目)	拡張領域表示用	—
RWrn+D	デバイスアドレス (6 台目)	拡張領域表示用	—
RWrn+E	デバイスアドレス (7 台目)	拡張領域表示用	—
RWrn+F	デバイスアドレス (8 台目)	拡張領域表示用	—

■ リモートレジスタ (RWw) 一覧

データ容量: 16 ワード

アドレス	通信項目	データ範囲	出荷値
RWwn	デバイスアドレス (1 台目)	設定値 (SV)	設定リミッタ下限～
RWwn+1	デバイスアドレス (2 台目)	設定値 (SV)	設定リミッタ上限
RWwn+2	デバイスアドレス (3 台目)	設定値 (SV)	0
RWwn+3	デバイスアドレス (4 台目)	設定値 (SV)	0
RWwn+4	デバイスアドレス (5 台目)	設定値 (SV)	0
RWwn+5	デバイスアドレス (6 台目)	設定値 (SV)	0
RWwn+6	デバイスアドレス (7 台目)	設定値 (SV)	0
RWwn+7	デバイスアドレス (8 台目)	設定値 (SV)	0
RWwn+8	デバイスアドレス (1 台目)	拡張領域設定用	設定用拡張番号設定 RYn6
RWwn+9	デバイスアドレス (2 台目)	拡張領域設定用	～RYnB と RY(n+1)8～
RWwn+A	デバイスアドレス (3 台目)	拡張領域設定用	RY(n+1)A によって指定し
RWwn+B	デバイスアドレス (4 台目)	拡張領域設定用	た拡張番号のデータ
RWwn+C	デバイスアドレス (5 台目)	拡張領域設定用	—
RWwn+D	デバイスアドレス (6 台目)	拡張領域設定用	—
RWwn+E	デバイスアドレス (7 台目)	拡張領域設定用	—
RWwn+F	デバイスアドレス (8 台目)	拡張領域設定用	—

2.4 4局占有1倍設定 (コントローラ 16 台割付)

■ リモートレジスタ (RWr) 一覧

データ容量: 16 ワード

アドレス	通信項目	データ範囲	出荷値
RWrn	デバイスアドレス (1 台目)	拡張領域表示用	表示用拡張番号設定 RYn0
RWrn+1	デバイスアドレス (2 台目)	拡張領域表示用	～RYn5 と RY(n+1)0～
RWrn+2	デバイスアドレス (3 台目)	拡張領域表示用	RY(n+1)2 によって指定し
RWrn+3	デバイスアドレス (4 台目)	拡張領域表示用	た拡張番号のデータ
RWrn+4	デバイスアドレス (5 台目)	拡張領域表示用	—
RWrn+5	デバイスアドレス (6 台目)	拡張領域表示用	—
RWrn+6	デバイスアドレス (7 台目)	拡張領域表示用	—
RWrn+7	デバイスアドレス (8 台目)	拡張領域表示用	—
RWrn+8	デバイスアドレス (9 台目)	拡張領域表示用	—
RWrn+9	デバイスアドレス (10 台目)	拡張領域表示用	—
RWrn+A	デバイスアドレス (11 台目)	拡張領域表示用	—
RWrn+B	デバイスアドレス (12 台目)	拡張領域表示用	—
RWrn+C	デバイスアドレス (13 台目)	拡張領域表示用	—
RWrn+D	デバイスアドレス (14 台目)	拡張領域表示用	—
RWrn+E	デバイスアドレス (15 台目)	拡張領域表示用	—
RWrn+F	デバイスアドレス (16 台目)	拡張領域表示用	—

■ リモートレジスタ (RWw) 一覧

データ容量: 16 ワード

アドレス	通信項目	データ範囲	出荷値
RWwn	デバイスアドレス (1 台目)	拡張領域設定用	設定用拡張番号設定 RYn6
RWwn+1	デバイスアドレス (2 台目)	拡張領域設定用	～RYnB と RY(n+1)8～
RWwn+2	デバイスアドレス (3 台目)	拡張領域設定用	RY(n+1)A によって指定し
RWwn+3	デバイスアドレス (4 台目)	拡張領域設定用	た拡張番号のデータ
RWwn+4	デバイスアドレス (5 台目)	拡張領域設定用	—
RWwn+5	デバイスアドレス (6 台目)	拡張領域設定用	—
RWwn+6	デバイスアドレス (7 台目)	拡張領域設定用	—
RWwn+7	デバイスアドレス (8 台目)	拡張領域設定用	—
RWwn+8	デバイスアドレス (9 台目)	拡張領域設定用	—
RWwn+9	デバイスアドレス (10 台目)	拡張領域設定用	—
RWwn+A	デバイスアドレス (11 台目)	拡張領域設定用	—
RWwn+B	デバイスアドレス (12 台目)	拡張領域設定用	—
RWwn+C	デバイスアドレス (13 台目)	拡張領域設定用	—
RWwn+D	デバイスアドレス (14 台目)	拡張領域設定用	—
RWwn+E	デバイスアドレス (15 台目)	拡張領域設定用	—
RWwn+F	デバイスアドレス (16 台目)	拡張領域設定用	—

🔍 4局占有2倍設定のリモートレジスタについては、**COM-JC [FB100/FB400/FB900 対応版] 取扱説明書 (IMR01Y06-JC)** を参照してください。

3. 拡張番号の設定

リモートレジスタ (RWr、RWw) の拡張領域で扱う通信項目は、拡張番号で指定します。必要なデータを拡張番号一覧から選択して、その拡張番号をリモート出力で設定すると、リモートレジスタ (RWr、RWw) で扱うことができます。

■ データを読み出す場合

● 表示用拡張番号の設定

表示用拡張番号は、リモート出力 RYn0～RYn5 と RY(n+1)0～RY(n+1)2 で設定します。

ビットイメージ

RY(n+1)2	RY(n+1)1	RY(n+1)0	RYn5	RYn4	RYn3	RYn2	RYn1	RYn0
Bit 8	Bit 7	Bit 6	Bit 5	Bit 4	Bit 3	Bit 2	Bit 1	Bit 0

ビットデータ: 0: OFF 1: ON [10 進数表現: 0～511]

■ データを書き込む場合

● 設定用拡張番号の設定

設定用拡張番号は、リモート出力 RYn6～RYnB と RY(n+1)8～RY(n+1)A で設定します。

ビットイメージ

RY(n+1)A	RY(n+1)9	RY(n+1)8	RYnB	RYnA	RYn9	RYn8	RYn7	RYn6
Bit 8	Bit 7	Bit 6	Bit 5	Bit 4	Bit 3	Bit 2	Bit 1	Bit 0

ビットデータ: 0: OFF 1: ON [10 進数表現: 0～511]

[例] 設定用拡張番号を「3」設定値 (SV) に設定する場合

占有局数／拡張サイクルック設定: 4局占有1倍設定

拡張番号 3:

設定値 (SV)	→	Bit 8	Bit 7	Bit 6	Bit 5	Bit 4	Bit 3	Bit 2	Bit 1	Bit 0
		0	0	0	0	0	0	0	1	1

🔍 メモリエリア用の拡張番号設定については、**COM-JC [FB100/FB400/FB900 対応版] 取扱説明書 (IMR01Y06-JC)** を参照してください。

4. 拡張番号一覧



属 性

RO: 読み出し専用

[COM-JC (リモートデバイス局) → マスタ局 (PLC)]

R/W: 読み出しおよび書き込み兼用

[COM-JC (リモートデバイス局) ↔ マスタ局 (PLC)]



不使用項目の読み出しデータはデフォルト値となります。また、不使用項目に書き込んでも無効となります。ただし、エラーにはなりません。

★:

メモリエリア対応データ

拡張番号	通信項目	属性	データ範囲	出荷値
0	測定値 (PV)	RO	入力スケール下限～入力スケール上限	—
1	操作出力値 (MV1) モニタ[加熱側]	RO	PID 制御、加熱冷却 PID 制御: -5.0～+105.0 % 位置比例 PID 制御 (FBR 入力あり): 0.0～100.0 %	—
2	電流検出器 1 (CT1) 入力値モニタ	RO	0.0～30.0 A (CTL-6-P-N) 0.0～100.0 A (CTL-12-S56-10L-N)	—
3	設定値 (SV) ★	R/W	設定リミッタ下限～設定リミッタ上限	TC/RTD 入力: 0 V/I 入力: 0.0
4	PID/AT 切換 ¹	R/W	0: PID 制御 1: オートチューニング (AT)	0
5	比例帯 [加熱側] ★	R/W	熱電対 (TC)／測温抵抗体 (RTD) 入力: 0 (0.0、0.00)～入カスバン ² (単位: °C [°F]) 電圧 (V)／電流 (I) 入力: 入カスバンの 0.0～1000.0 % (0、0.0、0.00: 二位置動作)	TC/RTD 入力: 30 V/I 入力: 30.0
6	積分時間 [加熱側] ★	R/W	PID 制御、加熱冷却 PID 制御: 0～3600 秒または 0.0～1999.9 秒 ³ (0、0.0: PD 動作) ⁴ 位置比例 PID 制御: 1～3600 秒または 0.1～1999.9 秒 ³	240
7	微分時間 [加熱側] ★	R/W	0～3600 秒 または 0.0～1999.9 秒 ³ (0、0.0: PI 動作)	60
8	PV バイアス	R/W	-入カスバン～+入カスバン ²	0
9	イベント 1 設定値 ★	R/W	偏差-入カスバン～+入カスバン ² 入力値または設定値	50
10	イベント 2 設定値 ★	R/W	入力スケール下限～入力スケール上限 ² 操作出力値 (MV1 または MV2): -5.0～+105 %	50
11～15	予約	—	—	—
16	不使用	—	—	—
17	RUN/STOP 切換	R/W	COM-JC*01-1 の場合 0: RUN 1: STOP COM-JC*01-2 の場合 0: STOP 1: RUN	0
18	比例周期 [加熱側]	R/W	0.1～100.0 秒 M: リレー接点、V: 電圧/パルス T: トライアック、D: オープンコレクタ	M: 20.0 V、T、D: 2.0
19	オート／マニュアル切換	R/W	0: オートモード 1: マニュアルモード	0

¹ 操作については、**COM-JC [FB100/FB400/FB900 対応版] 簡易取扱説明書 (IMR01Y11-JC)** の「3. フラグ操作」を参照してください。
² 小数点位置は小数点位置設定によって異なります。
³ 小数点位置は積分、微分時間の小数点位置設定によって異なります。
⁴ 加熱冷却 PID 制御の場合、加熱側または冷却側の積分時間をゼロに設定すると、加熱側、冷却側ともに PD 動作になります。

拡張番号	通信項目	属性	データ範囲	出荷値
20	マニュアル操作出力値	R/W	PID 制御: 出力リミッタ下限 (MV1)～ 出力リミッタ上限 (MV1) 加熱冷却 PID 制御: -出力リミッタ上限 (MV2)～ +出力リミッタ上限 (MV1) [-105.0～+105.0 %] 位置比例 PID 制御 (FBR 入力あり): 出力リミッタ下限 (MV1)～ 出力リミッタ上限 (MV1)	0.0
21、22	エンジニアリングモードのデータ ¹			
23	PV デジタルフィルタ	R/W	0.0～100.0 秒 (0.0: 機能なし)	0
24	ヒータ断線警報 1 (HBA1) 設定値	R/W	0.0～30.0 A (CTL-6-P-N) 0.0～100.0 A (CTL-12-S56-10L-N) (0.0: 機能なし)	0.0
25	エンジニアリングモードのデータ ¹			
26	操作出力値 (MV2) モニタ [冷却側]	RO	-5.0～+105.0 %	—
27	比例帯 [冷却側] ★	R/W	熱電対 (TC)／測温抵抗体 (RTD) 入力: 1 (0.1、0.01)～入カスバン ² (単位: °C [°F]) 電圧 (V)／電流 (I) 入力: 入カスバンの 0.1～1000.0 %	TC/RTD 入力: 30 V/I 入力: 30.0
28	比例周期 [冷却側]	R/W	比例周期 [加熱側]と同じ	
29	オーバーラップ／デッドバンド ★	R/W	熱電対入力 (TC)／測温抵抗体入力 (RTD): -入カスバン～+入カスバン ² (単位: °C [°F]) 電圧 (V) 入力／電流 (I) 入力: 入カスバンの-100.0～+100.0 % マイナス (-) 設定でオーバーラップとなります。ただし、オーバーラップ範囲は、比例帯の範囲内となります。	0
30	不使用	—	—	—
31	設定値モニタ	RO	設定リミッタ下限～設定リミッタ上限	—
32	エラーコード	RO	ビットデータ Bit 0: 調整データ異常 Bit 1: バックアップ異常 Bit 2: A/D 変換回路異常 Bit 3、Bit 4: 不使用 Bit 5: カスタムデータ異常 Bit 6: 不使用 Bit 7: ウォッチドックタイム異常 Bit 8: スタックオーバーフロー Bit 9、Bit 10: 不使用 Bit 11: プログラム異常 (ビジー) Bit 12～Bit 15: 不使用 データ 0: OFF 1: ON [10 進数表現: 0～2471]	—
33	メモリエリア切換	R/W	1～8	1
34	制御応答パラメータ ★	R/W	0: Slow 1: Medium 2: Fast [P、PD 動作時は無効]	PID 制御、 位置比例 PID 制御: 0 加熱冷却 PID 制御: 2
35	不使用	—	—	—
36	エンジニアリングモードのデータ ¹			
37	設定変化率リミッタ 上昇 ★	R/W	0～入カスバン ² ／単位時間 * (0: 機能なし) * 単位時間: 60 秒 (出荷値)	0
38～44	エンジニアリングモードのデータ ¹			
45	不使用	—	—	—
46、47	エンジニアリングモードのデータ ¹			
48、49	不使用	—	—	—
50	制御ループ断線警報 (LBA) 時間 ★	R/W	0～7200 秒 (0: 機能なし)	480
51	LBA デッドバンド ★	R/W	0～入カスバン ²	0
52、53	不使用	—	—	—
54	イベント 3 設定値 ★		イベント 1 設定値と同じ	50
55	イベント 4 設定値 ★			50
56～61	エンジニアリングモードのデータ ¹			
62	設定変化率リミッタ 下降 ★	R/W	0～入カスバン ² ／単位時間 * (0: 機能なし) * 単位時間: 60 秒 (出荷値)	0
63	総合イベント状態	RO	ビットデータ Bit 0: バーンアウト Bit 5: イベント 3 Bit 1: イベント 1 Bit 6: イベント 4 Bit 2: イベント 2 Bit 7: HBA2 Bit 3: HBA1 Bit 8: FBR バーンアウト Bit 4: LBA Bit 9～Bit 15: 不使用 データ 0: OFF 1: ON [10 進数表現: 0～511]	—
64	リモート設定 (RS) 入力値モニタ	RO	設定リミッタ下限～設定リミッタ上限	—
65、66	不使用	—	—	—
67	開度帰還抵抗 (FBR) 入力バーンアウト状態モニタ	RO	0: OFF 1: ON	—
68	メモリエリア運転経過時間モニタ	RO	0～11999 秒または 0～5999 分 データ範囲はソーク時間単位によって異なる。	—
69	デジタル入力 (DI) 状態モニタ	RO	ビットデータ Bit 0: DI 1 Bit 4: DI 5 Bit 1: DI 2 Bit 5: DI 6 ³ Bit 2: DI 3 Bit 6: DI 7 ³ Bit 3: DI 4 Bit 7～Bit 15: 不使用 データ 0: オープン 1: クローズ [10 進数表現: 0～127]	—
70	運転モード状態モニタ	RO	ビットデータ Bit 0: STOP (制御停止中) Bit 1: RUN (制御中) Bit 2: マニュアルモード ⁴ Bit 3: リモートモード ⁴ Bit 4～Bit 15: 不使用 データ 0: OFF 1: ON [10 進数表現: 0～15]	—

¹ データについては、**COM-JC [FB100/FB400/FB900 対応版] 取扱説明書 (IMR01Y06-JC)** を参照してください。
² 小数点位置は小数点位置設定によって異なります。
³ FB100 の場合は不使用となります。
⁴ マニュアルモードで運転中は、リモート／ローカル切換が、「1: リモートモード」の場合でも、マニュアルモード「1: ON」、リモートモード「0: OFF」になります。

拡張番号	通信項目	属性	データ範囲	出荷値
71～73	不使用	—	—	—
74	出力状態モニタ	RO	ビットデータ Bit 0: OUT1 Bit 4: DO3 ¹ Bit 1: OUT2 Bit 5: DO4 ¹ Bit 2: DO1 Bit 6～Bit 15: 不使用 Bit 3: DO2 データ 0: OFF 1: ON [10 進数表現: 0～63]	—
75	電流検出器 2 (CT2) 入力値モニタ	RO	電流検出器 1 (CT1) 入力値モニタと同じ	—
76～89	不使用	—	—	—
90	リモート／ローカル 切換	R/W	0: ローカルモード 1: リモートモード	0
91～109	不使用	—	—	—
110	リンク先エリア番号 ★	R/W	0～8 (0: リンクなし)	0
111	エリアソーク時間 ★	R/W	0～11999 秒または 0～5999 分 データ範囲はソーク時間単位によって異なる。	0:00
112	積分時間 [冷却側] ★	R/W	0～3600 秒または 0.0～1999.9 秒 ² (0、0.0: PD 動作) ³	240
113	微分時間 [冷却側] ★	R/W	0～3600 秒または 0.0～1999.9 秒 ² (0、0.0: PI 動作)	60
114～127	不使用	—	—	—
128	マニュアルリセット ★	R/W	-100.0～+100.0 %	0.0
129～139	不使用	—	—	—
140	ヒータ断線判断点 1	R/W	ヒータ断線警報 1 (HBA1) 設定値の 0.0～100.0 % (0.0: ヒータ断線判断無効)	30.0
141	ヒータ溶着判断点 1	R/W	ヒータ断線警報 1 (HBA1) 設定値の 0.0～100.0 % (0.0: ヒータ溶着判断無効)	30.0
142	PV レシオ	R/W	0.500～1.500	1.000
143	PV 低入力カットオフ	R/W	入力スバンの 0.00～25.00 %	0.00
144	設定ロックレベル	R/W	ビットデータ Bit 0: 設定値 (SV) / イベント設定値 (EV1～EV4) を除いた項目 Bit 1: イベント設定値 (EV1～EV4) Bit 2: 設定値 (SV) Bit 3～Bit 15: 不使用 データ 0: 設定可 1: 設定不可 (ロック) [10 進数表現: 0～7]	0
145	不使用	—	—	—
146	バックアップメモリ 状態モニタ	RO	0: RAM とバックアップメモリの内容不一致 1: RAM とバックアップメモリの内容一致	—
147	不使用	—	—	—
148	RS バイアス	R/W	-入力スバン～+入力スバン ⁴	0
149	RS デジタルフィルタ	R/W	0.0～100.0 秒 (0.0: 機能なし)	0.0
150	RS レシオ	R/W	0.001～9.999	1.000
151	ヒータ断線警報 2 (HBA2) 設定値	R/W	ヒータ断線警報 1 (HBA1) 設定値と同じ	0.0
152	ヒータ断線判断点 2	R/W	ヒータ断線判断点 1 と同じ	30.0
153	ヒータ溶着判断点 2	R/W	ヒータ溶着判断点 1 と同じ	30.0
154～340	エンジニアリングモードのデータ および 不使用データ ⁵			
341	積算稼働時間モニタ	RO	0～19999 時間	—
342	周囲温度ピークホル ド値モニタ	RO	-10.0～+100.0 °C	—
343	パワーフィードフォ ワード入力値モニタ ¹	RO	0.0～160.0 % 負荷の定格電圧に対する%表示	—
344～349	不使用	—	—	—
350	スタートアップ チューニング (ST)	R/W	0: ST 不使用 1: 1 回実行 * 2: 毎回実行 * スタートアップチューニングが終了すると、 自動的に「0: ST 不使用」に戻ります。	0
351～355	エンジニアリングモードのデータ ⁵			
356	自動昇温学習	R/W	0: 機能なし 1: 学習する * * 自動昇温学習が終了すると、自動的に 「0 (機能なし)」に戻ります。	1
357～359	エンジニアリングモードのデータ ⁵			
360～499	不使用	—	—	—
500	動作モード選択	R/W	ビットデータ Bit 0: アドレス指定方法 データ 0: 連続設定 1: 自由設定 Bit 1～Bit 15: 不使用 [10 進数表現: 0～1]	0
501	コントローラ通信 送信待ち時間	R/W	0～100 ms	0
502	接続コントローラ機種	R/W	0: FB100/FB400/FB900 出荷値のままで使用します (変更禁止)。	0
503	接続コントローラ アドレス設定	R/W	0～99 0: 接続コントローラなし	1～31
504	接続コントローラ状態	RO	ビットデータ Bit 0: コントローラ有無 Bit 1: 異常応答有無 Bit 2～Bit 15: 不使用 データ 0: なし 1: あり [10 進数表現: 0～3]	—
505	コントローラアドレス 自動取得設定	R/W	0: 自動取得なし 1: 自動取得あり * * 自動取得が終了すると、自動的に「0 (自動 取得なし)」に戻ります。	0
506～511	不使用	—	—	—